

竹の台地域委員会 「高齢」にかかわる勉強会
めざせ！ Happy100 年人生
第 2 回「認知症に関する具体的事例の紹介」 要旨

- 1 日 時：平成 30 年 7 月 21 日（土）13：30～15：00
- 2 場 所：たけのパーク フリースペース
- 3 参加者：25 名
- 4 講 師：西神中央あんしんすこやかセンター 松下所長・木下氏
 デイサービス「絆」 竹田氏
- 5 主な内容
 - (1) 筧委員長あいさつ
 - ・認知症になっても自宅に住み続けるために、まちづくりの観点から勉強会を実施している。前回は一般論を勉強したが、今回は具体的な事例や対応策を勉強したい。
 - (2) 松下所長
 - ①あんしんすこやかセンターとは
 - ・神戸市の「地域包括支援センター」のことで、介護・福祉の資格を持つ専門職に民間委託されている。全市で 76 ヶ所、西区に 9 か所あり、「西神中央あんしんすこやかセンター」は、竹の台のほか、美賀多台、糶台、狩場台を担当している。
 - ・65 歳以上の方の介護相談のほか、介護予防・認知症・権利擁護の普及啓発などを主な業務としており、月～土（9：00～17：00）に相談を受けている（土曜は事前予約が必要）。事務所は、西神中央の区民センタービル（出張所のあるビル）5 階にある。
 - ・2025 年問題（団塊の世代が 75 歳になり、4 人に 1 人が後期高齢者になる「超高齢化社会」を迎え、どのように対応していくのかという問題）を念頭において、個人の支援をまちづくりの中で行っていくための「地域ケア会議」をしているが、まだまだ課題が多い。
 - ②気づきの大切さ～相談の具体的な事例
 - ・警察からの相談が、ここ 2 年ほどで増えている。1 つは「徘徊」。名前は言っても住所が言えない人などが警察に保護され、センターに情報があるかといった問い合わせが多い。もう 1 つは「妄想による通報」。家にたくさんの方が押しかけてくるなどの連絡が高齢者側から警察に入るが、駆け付けてもそのような事実がない。センター職員が駆け付けるまで、警察官が見守っていてくれる事例も増えた。
 - ・銀行からの相談事例としては、何回も通帳の再発行に訪れ、あげく銀行員が金を盗んだとか言われて困り、一緒にセンターまで来ていただいたという例があった。
 - ・病院からの事例としては、1 つは健康保険の適用関係が理解できず支払いができないといった相談、もう 1 つは入院が必要なご主人が、奥さんが認知症で入院できない！ と入院拒否（ご主人も認知症気味）されて困っているという相談。

- ・このように認知症（気味）の人が増え、本人だけでなく、回りでも困っている人が増えているが、センターで把握できていない人も多い。
- ・家族からの相談事例では、急に怒りっぽくなった、家事をしなくなった、味付けがおかしくなったなどの言動や行動の変化が多いが、卵を毎日買ってくる、散らかっているから家に来るなどと言う、客が来ていないのに来ていると言うなどの事例もあった。
- ・住民からの相談事例では、部屋が分からなくてマンションの周りをうろうろしている、スリッパやパジャマでうろうろしている、汚れたタオルを頭にのせて歩いている、勝手に近所の家に入る、毎日大量の買い物をしているなどの事例があった。
- ・要支援・要介護の区分、また、その程度により、ケアマネが1カ月から半年に1回、訪問指導をしているが、それだけでは分からないことも多いので、センターに連絡いただくと助かる。連絡を受けて、「介護度」を変える場合もある。センターで把握している人も多いが、分からなければ民生委員に問い合わせたりもする。家族の方には介護保険等の案内をしたりもする。
- ・卵や牛乳の買いすぎという件では、お店側の気づきも大事なので、8月末に商業施設の方や銀行・郵便局の方などと初めて話し合いをする。結果は地域に報告する。

(3) 「絆」竹田氏

- ・竹の西公園の北側の住宅を利用し、月～金（9：30～16：30）にデイケアをしている。
- ・家族やセンターと連携して、だんだん回数を増やしていくことで、本人も慣れ、多くの人と接することなどにより、症状が改善することも多い。
- ・在宅医療者や看護職との連携もできるので、デイケアするかどうかは別に、困ったら相談してほしい。

(4) まちで見かけたときに、どのように声をかけるか（松下所長）

- ・休憩後、出席者同士でまず、5分程度の話し合いをした。また、参加者の代表に実際に声かけの実演をしてもらった。
- ・①「気づいてあげる」、「声をかけてあげる」ことが大切。②声をかけるときは、安心させ、落ち着かせるように、顔を見ながら声をかける、③「どこいくの？ 暑いのにどうしたん？ この辺に知っている人はいるの？」など、優しく声をかける、④必要に応じて、自分の家で休ませるなど、安全面に気を配ったうえで、警察などに連絡する。
- ・神戸市では「声かけ訓練」をしているので、是非、地域として参加してほしい。

(5) 意見・質疑等

- ・認知症の人を抱えた家族が積極的にセンターや近所に情報提供（恥をさらす）し、近所の人にも声かけをお願いしておくことで、対応もしやすくなり、皆が楽になる。
- ・センターに頼りすぎるのもいけないが、センターも遠慮せずに地域に協力を求めたらよい。住民もこれからは勇気をもって、もっと踏み込んでいくなどの覚悟が必要。
- ・ごみの出し方をみると、認知症かどうかの「目のつけどころ」になり、声をかけてみるなどのきっかけになるのではないかな。

- ・ 個人情報提供の了解の件で、自身が認知症で判断できない場合はどうするのか？
 - 家族に確認する場合もある。
- ・ 遠方に住んでいる「1人暮らし」や「夫婦ともに認知症」の親について、子としてできることは？
 - そのような相談が盆や正月明けに多くなる。遠くの親族より、近所の声かけなので、親にはできるだけ近所の人と仲良くしてもらい、帰省した時に近所の人やその地域の民生委員などをお願いしておくことくらいしか、できないかもしれない。
- ・ 認知症の疑いがあれば、センターか医療機関か、どちらに相談すべきか？ また、病院への上手な連れて行き方は？
 - センターは医療的なことは言えないが、介護申請には医師の診定が必要なので、同時に相談すればよい。いきつけの医師の名前を出して、「〇〇先生が言うてるから、1回、●●の病院の健康診断に行こう」などといった誘い方をすると効果があるかもしれない（人によるので難しい）。